



# Sun Fire™ 6800/4810/4800/3800 システムソフトウェア ご使用にあたって

---

サン・マイクロシステムズ株式会社  
東京都世田谷区用賀 4丁目 10番 1号  
SBSタワー 〒158-8633

Part No. 816-3366-10  
Revision A, 2001年10月

Copyright 2001 Sun Microsystems, Inc., 901 San Antonio Road, Palo Alto, CA 94303-4900 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

**Federal Acquisitions: Commercial Software—Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.**

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリコービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, AnswerBook2, docs.sun.com, Java, Sun Fire は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サン・のロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

Java およびその他の Java を含む商標は、米国 Sun Microsystems 社の商標であり、同社の Java ブランドの技術を使用した製品を指します。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

Netscape、Navigator は、米国 Netscape Communications Corporation の商標です。Netscape Communicator については、以下をご覧ください。Copyright 1995 Netscape Communications Corporation. All rights reserved.

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPENLOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典：	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 Systems Software Release Notes Part No: 816-2553-10 (v2) Revision A
-----	--



Please  
Recycle



Adobe PostScript

# ソフトウェアご使用にあたって

---

このマニュアルでは、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムのソフトウェアに関する一般的な情報および最新の情報について説明します。このマニュアルは、次の節で構成されます。

- 一般的な情報
  - サポートされている Veritas 社の製品
  - 交換用ボードおよびアセンブリのファームウェア
  - ファームウェアのアップグレードの変更
  - ログメッセージの変更
- システムコントローラコマンドの変更
  - 変更されたコマンドオプション
  - 新しいコマンド
  - 新しいコマンドオプションまたはパラメタ
  - 削除されたコマンド
  - 削除されたコマンドオプション
- Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの既知の制限事項

---

## 一般的な情報

### サポートされている Veritas 社の製品

Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムでは、次の Veritas 社のシステムソフトウェア製品をサポートしています。

- VxVM 3.1.1 (パッチ ID 111118-02 要適用)
- VxVM 3.2
- VxFS 3.4

---

注 - VxVM 3.1.1 は、MPxIO をサポートしていません。VxVM 3.2 は、MPxIO をサポートしています。

---

### 交換用ボードおよびアセンブリのファームウェア

ボードまたはアセンブリを取り付けたあとに、`showboards -p proms` コマンドを使用して、ファームウェアの更新が必要かどうかを判定してください。更新が必要な場合は、システムコントローラの `flashupdate -f` または `flashupdate -c` コマンドを使用します。flashupdate コマンドの正しい使用方法については、『Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムコントローラコマンドリファレンスマニュアル』を参照してください。

---

注 - 画面上のメッセージどおりに、`flashupdate -u` コマンドを使用しないでください。flashupdate -u コマンドを使用すると、非互換の問題が発生して、システムコントローラおよびドメインの再起動が必要になる可能性があります。

---

バグの修正およびシステムファームウェアアップグレード用の最新パッチのリストは、SunSolve Online で参照できます。SunSolve では、すべてのユーザーを対象に Y2K パッチなどの推奨パッチおよびセキュリティーパッチを提供しています。

SunSpectrum の契約ユーザーは、その他の製品および OS のパッチを利用できます。最新のパッチおよびシステムファームウェアのアップグレードについては、ご購入先にお問い合わせください。

## ファームウェアのアップグレードの変更

scapp 5.12.5 以降および RTOS 18 以降が動作している場合は、ファームウェアのアップグレード手順が少し異なります。インストールするイメージが、すでにインストールされているイメージと異なる場合にだけ、scapp および RTOS のイメージはアップグレードされます。ファームウェアは、起動処理の初めにアップグレードされます。

- scapp および RTOS、すべてのシステムボード (CPU/IO) をアップグレードするには、次のように flashupdate コマンドを入力します。

```
schostname:SC> flashupdate -f URL all rtos
```

## ログメッセージの変更

システムコントローラのログメッセージは、シャーシではなく端末のプラットフォームを使用するように変更されています。たとえば、Chassis.SC ではなく Platform.SC を使用します。

```
Jul 09 10:32:10 md6-sc0 Platform.SC: Boot: scapp 5.12.5, RTOS 18
```

---

## システムコントローラコマンドの変更

### 変更されたコマンドオプション

プラットフォームのログホストおよびドメインのログホストの機能は、個別に設定および表示されるように変更されました。これは、setupplatform および showplatform、setupdomain、showdomain に影響します。

showboards コマンドに、冗長モード (-v) ができました。-p オプションでは、バージョン情報および CPU の種類と速度、クロック状態が表示されるようになりました。

dumpconfig コマンドの古い出力形式は、新しいバージョンのファームウェアとは互換性がありません。



---

**注意** - dumpconfig の古い出力ファイルは、新しいファームウェアとは互換性がありません。scapp をアップグレードしたあとに dumpconfig を実行して、現在の構成と互換性のある出力ファイルを作成してください。メインシステムコントローラに障害が発生した場合に、プラットフォームおよびドメインの構成を復元できるように、互換性のある出力ファイルは必要です。

---

## 新しいコマンド

showresetstate                      リセット後に CPU の状態を表示

## 新しいコマンドオプションまたはパラメタ

showboards -d <i>domain</i>	ドメインに割り当て済みのボードを表示 (プラットフォームのみ)
showboards -p <i>board</i>	ボードの状態を表示
showboards -p <i>clock</i>	システムクロックの状態を表示
showboards -p <i>cpu</i>	CPU の種類および速度、外部キャッシュのサイズを表示
showboards -p <i>io</i>	入出力情報を表示
showboards -p <i>memory</i>	各ボードのメモリー情報を表示
showboards -p <i>power</i>	電源グリッドの情報を表示
showboards -p <i>version</i>	バージョン情報を表示
showboards -v	冗長モードを表示。出力が変更されます。
showcomponents	すべてのコンポーネントを表示
showcomponents <i>board</i>	複数のコンポーネントを表示

`showcomponents -d domain` ドメインに割り当て済みのコンポーネントを表示

`setdefaults -p platform` プラットフォームの構成をデフォルトに設定。  
「破壊的なコマンド」です。注意して使用してください。

`showdate -d domain` ドメインの日付を表示

`showplatform -p frame` `FrameManager` の情報を表示

## 削除されたコマンド

`reset` コマンドは、プラットフォームシェルから削除されました。

`showframe` コマンドは、`showplatform` に統合されました。

## 削除されたコマンドオプション

`setdefaults -a`

---

注 – 新規および変更されたシステムコントローラコマンドの詳細は、『**Sun Fire 6800/4810/4800/3800** システムコントローラコマンドリファレンスマニュアル』(Part No. 806-7903-11) を参照してください。

---

---

## Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システム の既知の制限事項

ドメイン A および B で `setkeyswitch` が動作している場合、`testboard` が失敗することがある (bugid 4384641)

回避策: `setkeyswitch` の処理中に、`testboard` を実行しないでください。

`scapp` が AC 電源の障害を検出しない (bugid 4413905)

電源装置への AC 入力に失敗したが 19 秒以内に復帰した場合、`scapp` は、V1 および V2 が中断なく継続的に動作していると判断します。電源装置にはマイクロコントローラを少なくとも 19 秒間は動作させることのできる十分な充電量があるため、`scapp` は電力の停止を 19 秒間記録しません。AC の停止が 19 秒を過ぎても続く場合、マイクロコントローラは完全に停止し、`scapp` は環境センサーが壊れているというメッセージを記録します。

回避策: 次の 3 種類の回避策があります。

- プラットフォームシェルで、「`poweroff psX;poweron psX`」と入力します。
- 電源装置を物理的に取り外し、再度取り付けます。
- システムコントローラを再起動します。

複数の FRU エラーによってドメインが一時停止する (bugid 4433404)

回避策: 可能な場合は、1 つの FRU を特定します。FRU を特定できない場合は、FRU 交換リストを発行します。エラーの原因である可能性がもっとも高い FRU がリストの最初に表示されます。画面に表示されているメッセージに従って、`setkeyswitch off` のあと、`setkeyswitch on` を実行します。



## 欠陥のある CPU が POST で検出されない (bugid 4448826)

**回避策:** 障害が発生しているコンポーネントを特定するために、`disablecomponent` を使用して欠陥または障害の発生した CPU を使用不可にします。障害の発生した CPU を使用しないで再起動するには、`setkeyswitch on` を使用してキースイッチをオンに設定します。`disablecomponent` コマンドの正しい使用方法については、『Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムコントローラコマンドリファレンスマニュアル』を参照してください。

## システムコントローラがエラーデータでいっぱいになり、障害状態を判定できない (bugid 4453985)

**回避策:** ボードを使用する前に、ボードに影響する環境要因を確認します。

## CPU ボードをテストしたあとに、`setkeyswitch` によって LPOST が停止する (bugid 4454003)

**回避策:** 障害を特定し、`disablecomponent` を使用して障害のあるボードをブラックリストに登録して、ドメインが回復できるようにします。`disablecomponent` コマンドの正しい使用方法については、『Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムコントローラコマンドリファレンスマニュアル』を参照してください。

## 自動 `setkeyswitch off` のあとに、システムコントローラがハングアップする (bugid 4454599)

システムコントローラの手動リセットには、影響がありません。

**回避策:** ネットワーク接続または `telnet`、`rlogin` を介して、動作中の各ドメインに接続し、可能な場合は、ドメインを停止します。そのあと Sun Fire システムの電源を切り、再び電源を入れます。

## システムボードが POST に失敗しても、ボードの LED 障害インジケータが点灯しない (bugid 4454623)

**回避策:** プラットフォームシェルから `showlogs` または `showboards` を使用して、障害が発生したシステムボードのエラーおよびテスト状態を表示します。

### scapp が ECC エラーとして誤った CPU を報告することがある (bugid 4477131)

**回避策 :** ECC エラーメッセージで報告される CPU が正しいかどうかは信頼できません。ECC エラーメッセージのエージェント ID (AID) を復号化して、エラーが発生している CPU を特定してください。

### showb -d domain で、ドメインに割り当てられていないボードが表示される (bugid 4488255)

**回避策 :** showboards コマンドを使用して、ドメインに割り当てられているボードを識別します。showboards コマンドの正しい使用方法については、『Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムコントローラコマンドリファレンスマニュアル』を参照してください。

### flashupdate で scapp および rtos が更新されないことがある (bugid 4491986)

**回避策 :** システムコントローラのネットワーク設定が正しいことを確認してください。また、http または ftp サーバーが正しく機能していることを確認してください。flashupdate コマンドが成功するまで再実行します。

### ホスト ID および MAC でのソフトウェアライセンスの問題 (bugid 4492051)

ホスト ID および MAC アドレスの現在の割り当て方法は、使用中の物理ドメイン (A、B など) に基づくため、ホストライセンスを持つソフトウェアは実行できません。ハードウェア障害によってドメインの変更が必要な場合、ホストライセンスを持つソフトウェアは起動できません。

**回避策 :** 保守プロバイダにご連絡ください。

## メニュー機能を使用して、SC\_POST の診断レベルを Min から Max へ変更できない (bugid 4494784)

**回避策:** システムコントローラのプラットフォームシェルから `setupplatform` コマンドを使用して、SCPOST の診断レベルを変更します。`setupplatform` コマンドの正しい使用方法については、『Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムコントローラコマンドリファレンスマニュアル』を参照してください。

## ボードの電源が入っていないと、`showboards -v` で誤ったフェイルオーバー状態信号が表示される (bugid 4500126)

**回避策:** 「SCC1 信号」および「フェイルオーバー」状態がわかるように、ボードの電源は入れておく必要があります。

## シングルパーティションでの `setkeyswitch on` の並列処理中に、ドメイン B でシステムエラーが発生する (bugid 4500966)

**回避策:** `disablecomponent` コマンドを使用して、障害の発生した CPU を使用不可にします。ドメインのキースイッチを `setkeyswitch off` でオフに設定してから、`setkeyswitch on` でオンに設定します。`disablecomponent` コマンドの正しい使用方法については、『Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムコントローラコマンドリファレンスマニュアル』を参照してください。

## 1 つの入出力アセンブリの障害によって、起動時に障害が発生する (bugid 4502247)

入出力アセンブリは単独でテストできません。入出力アセンブリの障害は、IO POST を実行したときに、ドメインのハードウェアの一時停止によってすべての起動処理が停止するため、認識できます。

**回避策:** `deleteboard` を使用して、ドメインから障害の発生した入出力ボードの割り当てを解除します。障害の発生したボードを使用しないで再起動するために、`setkeyswitch on` を使用してキースイッチをオンに設定します。`deleteboard` コマンドの正しい使用方法については、『Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムコントローラコマンドリファレンスマニュアル』を参照してください。

## ファームウェアに互換性がない場合、restoreconfig によってシステムコントローラがハングアップする (bugid 4504322)

**回避策:** 古いバージョンのファームウェアが搭載されたシステムで、restoreconfig を使用して、現在のファームウェアの構成ファイルを復元しないでください。システムがハングアップします。構成ファイルの復元は、OBP と同様に、システムコントローラプラットフォームまたはドメインシェルから手動で行ってください。